

情 報 公 開 文 書

研究の名称	漢方医学的所見と漢方処方に関連を検証する前向き観察研究
整理番号	臨29-132
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	富山大学学術研究部医学系和漢診療学講座 教授 貝沼 茂三郎
研究の概要	<p>【研究対象者】2018年2月2日から2025年3月31日までに富山大学附属病院和漢診療科を初診または再初診され、漢方方剤(半夏厚朴湯、八味丸料、桂枝茯苓丸料、当帰芍薬散料、加味逍遥散料、黄连解毒湯、真武湯、柴胡桂枝湯、五苓散料、半夏厚朴湯、小建中湯、六君子湯、防己黄耆湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、大柴胡湯、補中益気湯、十全大補湯、人参湯、大建中湯、柴胡桂枝乾姜湯、四逆散料、小青竜湯、茯苓四逆湯、小柴胡湯、香蘇散料、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、白虎加人参湯、麦門冬湯、大承気湯、葛根湯、麻黄湯、桂枝湯、麻黄附子細辛湯の33方剤に限る)による治療を受けられた症例を対象とします。</p> <p>【研究の目的・意義】日本の伝統医学である漢方医学では、独特の概念に基づいた診断により処方する漢方方剤が決定されます。この漢方専門医が日常診療で用いている暗黙知とも言える診断ロジックを、多症例のデータを統計解析し検証することで、漢方診断の形式知化と治療効果の向上を図ることを目的とします。</p> <p>【研究の方法】初診・再初診時に患者情報(初診日、年齢、性別、身長、体重、合併症)、漢方医学的所見(自覚所見(問診)、他覚所見(舌診・脈診・腹診))、処方された漢方方剤と選定理由・根拠となるキーワード、2~4週経過時に臨床効果、6ヶ月経過時に安全性と有用性を評価します。得られた情報は個人とは無関係の研究用識別番号を付し匿名化され、研究主機関である富山大学学術研究部医学系和漢診療学講座へ送り解析されます。</p> <p>【当機関における予定症例数】(すべての方剤の症例を合わせて)100例</p> <p>【研究期間】2018年2月2日~2026年3月31日(登録期間:2018年2月2日~2025年3月31日、追跡期間:2018年2月2日~2025年9月30日)</p> <p>【研究結果の公表の方法】研究代表者(富山大学学術研究部医学系和漢診療学講座 教授 貝沼茂三郎)がとりまとめ、学会・論文にて報告する予定です。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法(他機関への提供の有無)	<p>【診療目的で取得・保有する診療情報】個人とは無関係の研究用識別番号を付し匿名化した以下の情報:患者情報(初診日、年齢、性別、身長、体重、合併症)、漢方医学的所見(自覚所見、他覚所見)、処方された方剤名と選定理由・根拠となるキーワード、臨床効果、安全性、有用性。</p> <p>【研究の実施に伴って新たに取得する情報】なし。</p> <p>【他機関への提供の有無】あり。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	<p>【研究主機関】富山大学学術研究部医学系和漢診療学講座【研究責任者】教授 貝沼茂三郎【共同研究機関】富山大学和漢医薬学総合研究所和漢医薬教育研修センター 教授 柴原直利、千葉大学大学院医学研究院和漢診療学 准教授 並木隆雄、東海大学医学部専門診療学系漢方医学 准教授 野上達也、福島県立医科大学会津医療センター漢方医学講座 教授 田原英一</p>
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	富山大学学術研究部医学系和漢診療学講座教授 貝沼 茂三郎
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7393 FAX 076-434-0366 E-mail kainuma@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学学術研究部医学系和漢診療学講座 教授 貝沼 茂三郎</p>